

カルメル

霊性センターニュース



フラ・アンジェリコ画 「最後の審判」

2021年2月

372号

【教会からの巻頭のことば】

「イエスにお目にかかりたいのです」(ヨハネ 12・21)。この願いは、過越祭の巡礼でエルサレムにやってきた数人のギリシャ人から、使徒フィリッポになされたものですが、大聖年を過ぎ越したわたしたちの耳にも霊的にこだましています。二千年前の巡礼者のように、今日の人々は今日の信仰者に、たとえ意識的にでなくても、キリストについて「語ってほしい」だけでなく、ある意味でキリストに「会いたい」と願っています。

教会の務めは、歴史のあらゆる時代にキリストの光を放つことであり、今日も、新しい千年期の人々の前に、キリストのみ顔の光を輝かせることではないでしょうか？

しかし、わたしたちがまずキリストのみ顔を観想しない限り、わたしたちのあかしは、耐えがたいほど貧弱なものであるに違いありません。

(『新千年期の初めに』—「第2章観想すべきみ顔」16より)

目次

教会からの巻頭の言葉	1
目次	2
心の泉	3
カルメル会の企画案内	25
東京	26
京都司教区オンライン聖書講座	29
京都	30
キリスト教放送局 FEBC のご案内	32
諸所の企画案内	33
通信深読お申込みのご案内	37
郵送お申込みのご案内	38
あとかき	39

心の泉



黙想の家(宇治カルメル会修道院)



第三卷

第三十五章 この世ではつねに試練がある

1 主

《子よ、この世においてあなたは、いつまでも安心する時がない。生きているかぎり、あなたには霊的な武器がいる。あなたは敵に包囲され、四方から攻撃を受けている(詩編 22・17 参照)。忍耐の楯を用いないなら、間もなく傷を負わされるであろう。すべて私のために耐えようという真実の意志をもって、しっかりと私に根をおろさないなら、あなたはこの戦いをもちこたえられず、また聖人の勝利も受けられない。だから、あなたはすべての妨害を雄々しく乗り越え、力強く立ちあがらなければならない。報いとして、「勝利者には隠れたマンナを与え」(黙示録 2・17)、怠惰な者には悲惨が残されるからである。

2 この世ではなく、天の国を

あなたがこの世に休息を求めるなら、どうして永遠の休息に至れるだろう？この世で多くの休息を求めることをやめて、忍耐する心を整えなさい。この世ではなく天に、人間その他の被造物ではなく、ただ神のうちに真の平和を求めなさい。あなたは神のために、労苦、苦痛、誘惑、わずらい、不安、欠乏、病気、侮辱、悪口、非難、はずかしめ、^{ろうばい}狼狽、叱責、軽蔑を、快く耐え忍ばなければならない。これらは徳を積む役に立ち、キリストの弟子を試して、天の栄冠を準備するものである。私は短い労苦のために永遠の報いを、一時のはずかしめのために不朽の光栄を与えよう。

3 聖人の模範

あなたは、思いのままにいつでも霊的な慰めが与えられると思うのか。聖人さえも、絶えることのない慰めをもってはいなかった。むしろ多くの試練と、患難と、苦悩とを味わった。しかし彼らはあくまでも忍耐し、自分自身よりも神によりどころを置いた。それは、「この世の苦しみが、来世の光栄に比べものにならないこと」(ローマ 8・18)を、知っていたからである。あなたは、多くの人が涙と労苦の末に得たものを、すぐ手にしようと思うのか？「主の助けを望みつつ、勇ましく戦え」(詩編 27・14)。そして、心を安らかに保ち、信頼を失うな。戦いから退くな。神の光栄のために、体と心とを戦いのために投げだしなさい。私は、無上の報いを与え、あらゆる試練の時、あなたと共にいる。》

2021 聖ヨセフ年ー2

聖ヨセフがカトリック教会の保護者として宣言されてから150年を迎えるにあたって、新型コロナウイルス症拡大危機を背景に「教会の保護者」聖ヨセフの年がはじまりました。

世界はすっぽりと目に見えない猛威に包まれてしまったかのようなとき、救い主イエスの養父ヨセフが日常の平凡な生活において助けてくださいますように。カルメル会の改革者大聖テレサは聖ヨセフに対する深い信頼を自叙伝の中で語っています。



私は弁護者、保護者として光栄ある聖ヨセフを選び、熱心に彼に祈りました。…病気の困難な状態、そしてまた魂の救いにかかわる他の一層重大な危険から救い出してくださったのは聖ヨセフであったことをはっきり悟りました。…私は彼にお願いして、聞き入れていただかなかった覚えは今まで一度もありません。…他の聖人方はある特別の必要にさいして、私たちを助けてくださいますが、聖ヨセフは私たちのあらゆる必要にさいして助けてくださいます。それを私は経験によって知っております。



聖テレサは新しい修道院創立のために旅に出かける時は常にヨセフのご像をたずさえていたといわれています。確かに改革修道院の創立にあたっては聖ヨセフが助けていました。聖テレサが創立した18の改革修道院のうち10までが聖ヨセフに捧げられています。

主が行かれるところなら、どこへでも私はついて行きます。野を行き山を超え、幾重の谷を越えても「主よ、あなたはいつも私とともに歩んでくださいます。」

伊従 信子
ノートル・ダム・ド・ヴィ

十字架の聖ヨハネのこぼれ話 (154)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

栄光と喜び (続き)

ともあれ、十字架のヨハネのこのような振る舞いは、私には繰り返し述べてもよいと思われる次のような見解がふさわしいと思われる。「自分がしていることをはっきりと意識していた神秘家（訳注：ヨハネのこと）は、天国では彼の肉体の目も聖体の形も残存しないということを知りつつ、パンという神秘のヴェールのもとにいるキリストに、最後の礼拝を行ない、御聖体となったキリストに別れを告げているのです」。それは、生と死の境での信仰に基づく偉大な振る舞い、偉大な別れです。ここでの最後の出会いは、ヨハネ修士が『霊の賛歌』を書いた時、予め示していたもう一つの最初で決定的な出会いまで途切れることなく引き延ばされます。「…ある人が遠方から着いて、最初にするのは、愛する者の顔を見、これと語り合うことである。同様に、神を見るに至った霊魂が第一にしたいことは、み言葉の御托身の深い秘密と奥義、またそれに関連する神の古来からの道を知り、かつ楽しむことである」（CB37, 1）。

私たちが訪ねるとのことです①

すでに数年前、十字架のヨハネの戦いについて、修道院の財務管理者や会計係、協力者や仲間たち、管区長代理や管区長との「こぜりあい」について少し書きました。ヨハネ修士は、神への大きな信仰と希望を断固として主張し、人間的な企てにはまったく固執しませんでした。

他の人々は、時々心配になり、行動を起こすべきだと、彼のところに言いに来ました。何とかすべきだ、要求すべきだと、説教壇からさえも彼に迫りました。ヨハネ修士は、修道院の必需品を軽んじるどころではありませんでした。結局、あとで分配する時でさえも、「神が与えてくださるだろう」と繰り返すばかりでした。

そして神は彼に必要なものを与え、彼の観点を確証しました。私は、彼の哲学、あるいは摂理の神学とも呼んでよいかと思いますが、それは、次のような反論とその答え、並外れた振る舞いといった出来事を通して、とてもよく示されています。

(P. 九里訳)

創造主への賛美（39）

九^{のり}里 彰

創造主を賛美するには、人は真に謙遜でなくてはならない。そしてこの謙遜は真理と結びついていると、アビラの聖テレジアは言う。

ある時、私は、いったいなぜみ主はあれほど謙遜の徳がお好きなのかと考えていました。ところがもうそんなことについて考えていなかった—と一瞬、次の考えが浮かびました。「それは、神は至高の真理でおいでになり、謙遜とは真理の内に歩むことであるからである」と。

（6M10, 7）

謙遜は、単に感情や態度といった主観的な問題ではなく、自分を越えた真理という客観的普遍的な地平の中で捉えられるべきものだというのである。前回触れたように、「自己認識」の問題であり、真理認識の問題なのである。では、その真理とは何であろうか。テレジアによれば、次のようなことを意味している。

私どもが自分自身として何もよいものを持たず、惨めさと無にすぎないということは、ほんとうに大きな真理です。（同上）

この真理は、自然科学や社会科学が追及しているような学問的な真理とは、明らかに異なる。宗教的真理、それも頭であれこれ考えてつかむようなものではなく、霊的に気づかされる、お恵みとしてしか感じられるような真理だと言える。実際、「自分自身として何もよいものを持たない」ということを知ることは、それほど簡単ではない。どれほど自分によいものがあったとしても、それらはみな本来自分のものではないということに気づくこと。人からほめそやされ、自分自身も気づいている何らかの長所や能力など、一多少努力したかもしれない。だがその努力する時間や気力、努力できる経済的社会的環境など一、すべてはお恵みだということに、人はなかなか気づかない。それらは、皆、神から与えられたものであり、自分のものだと言主張することはまったくできないということである。

（続く）

年間 第5主日

(マルコ 1 : 29 - 39)

イエスが、熱を出して寝込んでいたシモンのしゅうとめのそばに立ち、手を取って起こされると、たちまち熱は去り、彼女は一同をもてなしました。

イエスがそばに立った時、また手で触れた時、彼女は何を感じたのでしょうか。どのようにして熱は去り、起き上がる力が湧いてきたのでしょうか。彼女がこの時からイエスに感化され、イエスに従う者となったことは確かです。「もてなす」と訳されている言葉は「仕える、奉仕する」というギリシャ語が使われています。イエスは「あなた方の中で一番上になりたい者は、皆の後になり、皆に仕える者になりなさい」と弟子たちに教えられました (マルコ 9・35)。イエス自身も「人の子は仕えられるためではなく、仕えるために来た」とも言われました (同 10・45)。イエスから力をもらったしゅうとめは、早速イエスを模倣する弟子として実践を始めたということです。

イエスの良い弟子となるためには、自分のそばに立つイエスを身近に感じ、そこから力をいただく必要があるのだと思います。祈りをとおして、身近にいるイエスを意識しながら、仕える力をいただきたいものです。

また、イエスはこの時、多くの悪霊を追い出していました。悪霊の正体を説明するのは難しいことですが、それは「人の心に働く悪の霊」と考えていいと思います。人を罪へ誘い、ネガティブな心で不自由にしてしまう霊だといえるでしょう。イエスはそのような霊を追い出していたのです。大切な点は、イエスはその人自身を傷つけたり、裁いたりすることなく、悪い霊だけを追い出していたという点です。私たちだと、「あの人は悪い人だからダメだ」と人間ごと裁いたりしてしまいますが、イエスは悪の霊だけを追い出し、その人を正気にさせ、救います。ある個所では、正気になったその人は「イエスについて行きたいと願った」と書いてあります (マルコ 5・18)。人間は変わるのです。イエスは罪を憎まれますが、罪人は愛します。「わたしは罪人を招くために来た」 (同 2・17)。世の罪を取り除くためにこそ、イエスは働き続けるのです。

いろいろなものが、私たちの生き方を妨げていると言ってもいいと思います。イエスは私たちの中にあるいろいろな障害を取り去り、仕える生き方へと導き、愛を生きる自由な人間に変えてくださるために福音を宣べ伝えたのです。私たちを決して裁かず、妨げを取り去り、仕える意欲を与えてくださるイエス様をいつも身近に意識しながら歩んでいきましょう。 (今泉健 神父)

年間 第6主日 (B)

(マルコ 1 : 40 - 45)

「御心ならば、わたしを清くすることがおできになります」

本日の福音は、イエスが重い皮膚病を患う人を癒す奇跡の話です。皮膚病患者は、イエスの前でひざまずいて「御心ならば、わたしを清くすることがおできになります」と願い、イエスは深く憐み、手を差し伸べてその人に触れ、「よろしい。清くなれ」と言われました。ここに、皮膚病患者の勇気を見ることができます。彼は、イエスが皮膚病を癒して社会復帰させてくれるという完全な信頼と委託のうちにイエスを訪れました。

イエスは、いつくしみ深い救い主であり、憐みによって皮膚病患者を治癒しました。直ちに癒したこの癒しの行為に、神の力といつくしみが表れています。イエスは、苦しむ人を深くいつくしまれます。毎年12月に「イエスの誕生」を祝いますが、イエスが受肉されて地上に来られ、十字架で死なれたのは、人類へのいつくしみによるものです。「いつくしみ」の単語の語源は、相手と一緒に苦しむことです。イエスは、いつくしみによって相手に触れ、その人のありのままの姿を受け入れます。これはイエスの全生涯における言動で明らかです。

イエスの重い皮膚病患者に対する大きないつくしみと、皮膚病患者のイエスに対する大きな信頼に、私たちは心を留めましょう。皮膚病患者と同じように、私たちも信頼と痛悔の心をもって主のみ前に進み出て、自分の罪の赦しを請い願う必要があります。いつくしみ深い神に信頼し、霊的な皮膚病から清めてくださるよう祈らなければなりません。私たちの罪の重さや回数にかかわらず、神はいつも赦し、私たちを迎えるために腕を広げて待っておられます。

神のみことばは、神がいつくしみ深いように私たちもいつくしみ深くあれ、と今日呼びかけています。私たちを通じて、貧しい人、病人、苦しむ人に神の愛の手を差し伸べなければなりません。イエスは、私たちの愛に満ちた言葉と行いによって、彼らの人生に触れたいと望まれています。

(Sr. Paulina)

四旬節 第1主日

(マルコ 1 : 12 - 15)

今日はイエスが故郷のガリラヤのナザレからヨハネのところに来られ、ヨルダン川で洗礼を受けられた後の出来事、霊によって荒れ野へと送り出された時の話です。

イエスは荒れ野に送り出されました。荒れ野、荒涼とした場、生きるにも大変な場、水を得るにも食料を得るにも大変な場。その様な場所でイエスは、40日間とどまられました。40日の40という数は、準備の期間を現わす数字ですね。ノアの洪水の際の四十日四十夜、モーセがシナイ山で神と契約を締結する際に過ごされた四十日四十夜、イエスが復活の後、使徒たちに四十日にわたって現れたことからわかるでしょう。

さて荒れ野での40日は、イエスが公生活にお入りになられる前の出来事ですから、公生活の準備の期間ということになりますね。その様な時にイエスはサタンから誘惑を受けられたわけです。他福音書、マタイ福音書やルカ福音書では、イエスとサタンとの対決の様子が具体的に述べられていますが、今日のマルコ福音書ではそれらの事柄は、述べられてはいません。誘惑を受けられた期間、野獣と一緒におられたが、天使たちが仕えていたとだけの記載です。その時の状況は想像で思い巡らすしかないでしょうか。

そして洗礼者ヨハネが捕えられた後、伝道を始められましたが、当時の宗教的中心地エルサレムから始められるのではなく、遠く離れた場所、異邦の色彩の強い場である、イエスの故郷のガリラヤから福音が告げ知らされてゆきました。「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい。」と語られて、言葉とわざによって、神の国が近づいていることを、宣べ伝えられ、人々に回心と信仰を呼び掛けられたわけです。

これは二千年前に語られた言葉ですが、悔い改めるように信じるようにと、私たちに今日語られている言葉でもあります。私たちは神から離れてしまっていないでしょうか。そうだとすればこの言葉に耳を傾けて悔い改めましょう。もし信じていないのであれば、信じない者ではなく、信じる者となりましょう。イエスは私たちを救うためにこの世に来られました。イエスに心を向け、回心し、私たちも福音を告げ知らせるものとなってゆきます様に。
(Fr. 古川利雅)

四旬節 第2主日

(マルコ 9 : 2 - 10)

本日の福音は、山上でのイエスの変容について語っています。イエスは天の栄光のうちに現れます。山上でイエスは天からの声によって神の子として認められます。このように、変容についての記述はイエスとは誰であるかについての表明であり、啓示です。

イエスが選んだ弟子たちは、イエスの神の栄光を知りました。雲の中から聞こえた「これはわたしの愛する子、これに聞け」という天の御父の声は、イエスの洗礼のときの「あなたはわたしの愛する子、私の心に適う者」という神の言葉と同じです。また、イエスの死の瞬間ローマの百人隊長は「本当に、この人は神の子だった」と宣言しました。これらの言葉は、山上での変容の意味を要約しています。すなわち、神はイエスをご自分の子、愛する者として現わし、常に神の心に適う者であり、私たちが聞き従わなければならない方なのです。

キリスト者として私たちも自分の生涯の中で、この世から天国までの旅の中で多くの変容をしています。最初の変化は洗礼のときに始まります。洗礼は原罪を洗い流して、私たちが神の子、天の相続人に変容します。第二の変容は、人生の試練と困苦に対する勝利の時に起こります。全ての困難、全ての難局、全ての挑戦は変容と霊的成長の機会となります。第三の変容は死のときに起こります。天国での永遠の生命は、おそらく煉獄での更なる変容の時期のあとになるでしょうが、相応しいと思われた人に与えられます。最後の変容、すなわち変貌は、私たちの栄光ある肉体が霊魂と再び統合される第二の到来のときに完成されるでしょう。

ミサのとき祭壇で私たちが捧げるパンとぶどう酒は、イエスの生きている体と血に変化します。イエスの変容が試練のとき弟子たちを力づけたのと同じように、ミサは誘惑に対抗する力の源となり、四旬節の期間の私たちの生まれ変わりとなります。イエスとの交わりである聖体拝領は、私たちの日々の変容の源であり、私たちの心と精神において、態度と行動においてイエスに似てくるように私たちを変容させます。

(Sr. Paulina)

いのちの言葉 2月

あなたがたの父が憐れみ深いように、
あなたがたも憐れみ深い者となりなさい。
(ルカ6・36)

福音記者ルカは「憐れみ」という言葉を、神の愛の偉大さを強調するために好んで使っています。

聖書において「憐れみ」とは、神の愛の母性的な側面を表しています。神が飽くことなく、被造物を大切にし、育て、慰め、歓迎することを、この言葉は言い表しています。主は、預言者イザヤを通してご自分の民にこう約束されました。「母がその子を慰めるように、わたしはあなたたちを慰める。エルサレムであなたたちは慰めを受ける」¹と。

「憐れみ」は、イスラム教の信仰においても重きを置かれ、讃えられている神の特徴の一つです。99ある「神の呼び名」の中で、イスラム教徒が最も頻繁に使用するのは「誰よりも憐れみ深い方」と「誰よりも寛容な方」です。

福音書のこの場面には、遠方の地域や町からもやってきた群衆を前にイエスが、大胆な驚くべき提案をした様子が描かれています。まさに憐れみ深い愛を持つことで、父なる神のように生きよと。

これは、到底不可能な、到達できない目標のように思われるかもしれませんが。

あなたがたの父が憐れみ深いように、あなたがたも憐れみ深い者となりなさい。

福音書の観点から言うならば、私たちが御父のように生きるためには、日々まずイエスに従い、自分から先に愛することをイエスから学ぶ必要があるでしょう。これは、神ご自身がいつも私たちにしてくださることです。

ルター派の神学者ボンハッファー（1906-1945）は自らの霊的体験としてこう書いています。「キリスト教共同体は日々、『私は憐れみを受けた』と歌います。私も、神に心を閉ざしていた時にさえ、この賜物を受け取りました。（略）迷子になり、戻る道を見つけられなかった時に。主の言葉が私を探し当ててくれたのです。

そうして私は分かったのです。主は私を愛しておられるのだと。イエスは私を見つけてくださいました。主だけが、私のそばにいてくれたのです。

私を慰め、過ちをすべて赦^{ゆる}してくださいと、私の悪を責められることはありませんでした。私が主の敵となり、戒めを守らなかったとき、主はそんな私を友人のように扱ってくださいました。（略）主がなぜこんなにも私を愛してくださいと、大切にしてくださいのか、私には理解できません。主が一体どのようにして、愛をもって私の心を勝ち取ろうとされ、事実成功されたのか、分かりません。ただ一つ言えるのは『私は憐れみを受けた』ということだけなのです。」²

あなたがたの父が憐れみ深いように、あなたがたも憐れみ深い者となりなさい。

この福音のみ言葉は、私たちの人生に変革を起こすようにと招いています。何か腹立たしいことをされたとき、拒絶の態度、裁く、やり返すのではなく、赦し、憐れむことを選ぶようにということです。

義務感からではなく、イエスの招きに応えてそのようにするのは、自己主義のもたらす「死」から、真の交わりがもたらす「いのち」へと移るチャンスを受け入れることなのです。そうすれば私たちは、喜びのうちに御父と同じ DNA をいただいていることを発見するでしょう。誰のことも断罪せず、皆に二度目のチャンスを与える神、希望の地平線を開いてくださる御父の DNA を。

赦しと憐れみを生きることは、きょうだい愛に基づく人間関係を築くための土台を準備します。そのような人間関係から、皆が待ち望んでいる平和で建設的な共存を目指す共同体が生まれ、発展できるのです。

あなたがたの父が憐れみ深いように、あなたがたも憐れみ深い者となりなさい。

フォコラーレの創立者であるキアラ・ルービックは、憐れみを実践する人々の幸いについての、マタイ福音書の一節³を黙想しながら次のように書いています。

「憐れみと赦しについての話は、福音全体を通して見られます。（略）実際、憐れみは愛の最高の表現であり、愛を完全なものにするものなのです。

（略）では、出会う隣人一人ひとりに対して、この慈しみあふれる愛を生きてみましょう。慈しみは、隣人一人ひとり、特に最も貧しい人、困っている人を受け容れることのできる愛です。この愛は豊かで、限界がなく、すべての人に注がれ、具体的な形で示されます。また、このような愛を受けた相手も愛するようになり、そこからは相互愛が生まれます。人が憐れみを持たない時には、正義が唯一の尺度となりますが、それによって『正しさ』は守られても、人々の間に『きょうだい愛』をもたらしことはできないでしょう。困難で勇気のいることかもしれませんが、出会う隣人一人ひとりを前にして、『自分がこの人の母親だったら、どうするだろう』と考えてみましょう。神の御心を理解し、それに従って生きるための助けとなるでしょう。」⁴

レティツィア・マグリ

連絡先: フォコラーレ 東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail: tokyofocfem@gmail.com

ホームページ: <https://www.focolare.org/japan/>

¹ イザヤ書 66 章 13 節

² ディートリッヒ・ボンヘッファー 1938 年 1 月 23 日 『La fragilità del male (悪の脆さ、未邦訳) 未発表原稿』(2015 年、Piemme) より

³ マタイ 5 章 7 節「憐れみ深い人々は、幸いである。その人たちは憐れみをうける。」

⁴ キアラ・ルービック 『いのちの言葉』2000 年 11 月より

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。

<< Communications (時事通信) >>

2020年12月28日

オンラインでの活動



今世界中のシスター、修道士、在世会の兄弟姉妹たちは、新型コロナウイルス感染症がもたらしたパンデミックで苦しんでいる人々を元気づけ、希望を与えようと様々な方法で貢献しています。

なかでも跣足カルメル修道会のメンバーにより、共同体や個人がインターネットを駆使して、典礼の場、養成、祈り、対話、出会いの場、聖人の著作朗読、などを提供していることは注目に値します。

そこには、今やインターネット上にテレジア的カルメルの刻印をかかげて、インドからスペインへ、英国ブリテンからアフリカのブルンジへ、米国からアルゼンチンやオーストラリアへと繋がる、多くの独創的な取り組みがなされています。ここ総長館本部でも全力でソーシャルネットワークを使って、近況のニュースや新しい情報を皆さんと分かち合えるよう取り組んでいます。

政府のもとにあるセンターもネット上に出ています。CITeS—国際神秘神学大学—では、数多くの有益な典礼や霊性に関する講座がウェブサイト (www.mistica.es) 上で、あるいはYouTubeチャンネルでは国際神秘神学大学 (Universidad de la Mística) から視聴することができます。

そしてローマのテレジアヌム教皇庁国際神学院では、オンラインで第18回神秘神学のシンポジウムが12月13日から公開されていますので、皆さんもYouTubeチャンネル (Teresianum : Pontifical Theological Faculty—Rome) 毎月の黙想 (monthlyretreat) から conferences で内容を調べることができます。

私たちは皆さんにこれらのインターネット上での取り組みを知っていただき、他の人々にもお知らせいただけるようお願いしています。

(小宮山延子訳)

糸巻き棒からペンへ(61)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OCD

聖テレジアは、マルタとマリアは手をつないで歩まねばならない (cf. 7M4,12)、またイエスの弟子へのすべての勧めは愛の掟に要約されると言いました。「主は私どもにただ二つのことを要求なさいます。つまり、主を愛することと隣人を愛すること。この二つによく努めなければなりません。これを完全に守るならば、私たちは主のみ旨を行ない、主と一致するのです」(5M3,7)。聖女は、「目に見える兄弟を愛さない者は、目に見えない神を愛することができません」(1 ヨハ 4,20) という聖ヨハネの言葉を好んで繰り返しました。

福音を伝えようとする聖女の強い欲求や、教会とすべての人への、特に罪人や苦しむ人々(貧しい人々や病人など)への情熱的な愛は、まさにキリストに恋することから、またキリストとの聖女の個人的な関わりから生まれています。それゆえ、修道女たちに、彼女たちの主な仕事は、すべての人を神の玉座の前に連れていくよう、昼も夜も、教会のため、その必要のために祈ることだと主張するのです。教会への彼女の深い愛は、その信条と一つなり、二次的な事柄に時間を費やすことなく、全エネルギーを教会への奉仕に捧げるよう導きました。「世界は燃えています。人々はキリストを再び処刑したいのです。キリストの教会を地に打ち倒したいのです。・・・姉妹達よ、今はくだらないことを神にお願いする時ではありません。」(CE1,2 以下)。

聖女は、当時の宗教的分裂が、新しい修道院の創立を促す動機であったと告白しています。「あのルーテル派による被害や、この不幸な一派がどんどん発展してゆくことなどを知った時、・・・私は主と共に泣き、このような大きな悪に対して何か処置を取ってくださるよう、一心にお願いいたしました。・・・み主には敵はあんなに多く、友はこんなにも少ない。だからこのわずかな者は、良い友でなければならないと。それで私は、自分にできるわずかばかりのことをしようと決心したのです。そのわずかなこととは、私としてできるかぎり完全に福音の勧告を実行すること、またここにいる幾人かの修道女たちにも、そうさせてあげること」。

(P.九里訳)

カルメル誌 新刊案内



2020年 冬号 No.379

《現代に生きる祈りの伝統》**

桐生聖クララ会—新しい修道会、新しい生活
シスター・マリア・イルミナータ

信仰生活(再)入門(12) 聖書に学ぶ祈りの道(4)
—現代のための神のみことば、テレーズとともに②

片山はるひ
道の霊性(4)—幼い者の隠れた道 田畑邦治

キリストに伴われて季節を巡る(12)
—クリスマスの歎び 伊従信子

クリスマスメッセージ 二〇二〇
ポーリン・フェルナンデス

カルメル会の会則に見る
アシェーシスと修道生活(12) 九里 彰

霊的研究会講義録(10)—聖書・祈り・愛について
奥村一郎



2020年 特集号

「すべてのいのちを守るため」
—フランシスコ教皇のメッセージ—

神の愛といのちの福音を次世代に
松田浩一

教皇フランシスコの説く「平和への道」
九里 彰

司牧者のかがみ 教皇フランシスコ
今泉 健

教皇フランシスコならではの視点と光
—寄留者の尊厳
大瀬高司

ご案内 1冊 520円 A5サイズ 50~70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・
各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、700円【520円 (+送料 180円)】程度の献金を下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬+特集号 計 3,500円)を
下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

※2021年度より料金が変わります(1冊 580円 年間購読 3,600円)

●お問い合わせは、事務担当:内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又は e-mail で。

〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.jimu@gmail.com

書籍案内



『パンデミック後の選択』

著者：教皇フランシスコ

判型：四六・並製

ページ数：80 ページ

価格：本体 500 円（税込 550 円）

ISBN：978-4-87750-224-9

出版社：カトリック中央協議会

無関心のグローバリゼーションは、わたしたちをその歩みにおいて危険にさらし挑発し続けます。どうかわたしたちが、正義と愛と連帯という必須の抗体を見いだせますように。

COVID-19 という人類の危機から生まれうる、貧しい人、弱い立場にある人を中心にした、新しい世界を築くための手掛かり。

カトリック中央協議会

バチカン出版局より刊行された Life After the Pandemic の邦訳。パンデミックに言及する 8 つの文書を収録。高い感染リスクにさらされながらも他者に献身する人々や、収入が絶たれたり、在宅要請を守るのが難しかったりする弱い立場の人々に心を寄せつつ、困難な試練を新しい選択への好機に変えるよう励ます。単にパンデミック以前を取り戻すのではなく、連帯を示し、もっとも傷つきやすい人を中心にした社会を構築すべきとの呼びかけ。

目次・内容

- 序（マイケル・ツァーニー枢機卿, SJ）
- なぜ怖がるのか（特別な祈りの式におけるウルビ・エト・オルビのメッセージ、2020年3月27日、サンピエトロ大聖堂前にて）
- コロナ後への備えの重要性（ロベルト・アンドレス・ガラルド氏あて書簡、2020年3月28日付）
- 新たな炎のように（2020年復活祭ウルビ・エト・オルビのメッセージ、2020年4月12日、サンピエトロ大聖堂にて）
- 目立たぬ兵士たち（草の根市民運動あて書簡、2020年4月12日付）
- 再起計画（雑誌 Vida Nueva（新しい生）への書き下ろし、2020年4月17日）
- エゴイズム——より悪質なウイルス（復活節第二主日（神のいつくしみの主日）説教抜粋、2020年4月19日、サントスピリト・イン・サッシア教会にて）
- ストリートペーパー関係者へ（2020年4月21日付書簡）
- 地球規模の問題を乗り越える（第50回アースデイについての一般謁見講話抜粋、2020年4月22日）
- 付録（マリアへの祈り一、二）
- あとがき

新書紹介

十字架の聖ヨハネ理解のための

待望の書 翻訳刊行



『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話
〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス

訳者：九里 彰

判型：B6 判並製

ページ数：184 ページ

価格：本体 1,600 円+税

ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016

発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットや AI が発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていくます。

フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933 年スペイン、バレンシア生まれ。1950 年跣足カルメル修道会入会。

1957 年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジアヌム教授。

2018 年 10 月 27 日マドリードにて帰天。享年 85 歳

九里 彰

カイルメル修道会司祭。1981 年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990 年カルメル会入会。1997 年司祭叙階。1999~2002 年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長

愛と英知の道

—すべての人のための霊性神学—

ウィリアム・ジョンストン 著

九里 彰 監訳

岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生涯の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにし

第一部 キリスト教の伝統

- 第1章 福音書(1)
- 第2章 福音書(2)
- 第3章 理性対神秘主義
- 第4章 神秘主義と愛
- 第5章 東方のキリスト教
- 第6章 愛を通して生まれる英知

第二部 対話

- 第7章 科学と神秘神学
- 第8章 修徳主義とアジア
- 第9章 神秘主義と根源的なエネルギ
- 第10章 英知と(空)

第三部 現代の神秘的な旅

- 第11章 信仰の旅
- 第12章 浄化の道
- 第13章 暗夜
- 第14章 (愛のうちにある)
- 第15章 花嫁と花知
- 第16章 一 致
- 第17章 英知
- 第18章 活動
- 第19章 社会活動の神秘主義

ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を上智大学などで講じるかたわら、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。





書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

———目次———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

2020年のご案内

年間テーマ 手を取りあい、白ら歩み出す



大瀬高司 師

好評の2019年の連載「カトリックの信仰を生きた愛国者・ステファノ山本信次郎」に引き続き大瀬高司神父の新連載が始まります。

●近代日本の歩みとカトリック教会
——山本信次郎研究ノートより
大瀬高司（カルメル修道会司祭）

山本信次郎研究で得られた成果から、近代日本のカトリック教会での出来事や人物を取り上げ、これまであまり知られていないエピソードを中心に紹介します。

その他の新連載

- アンジェラスの鐘／加藤美紀（教育学者）
- 知恵ある者たちのアフォリズム／加藤久美子（聖書学者）
- かたわらに、今、たたずんで／大野高志（日本基督教団牧師）
- 聖歌と賛歌——民衆霊性と多様性から
杉本ゆり（中世教会音楽研究者）
- 新米神父の開拓奮闘記／大西勇史（広島教区司祭）
- いのちの交わりの場——エコロジカルな暮らしのために
吉川まみ（環境学者）

継続連載

- 典札暦と季節の味わい（応用編）
柳谷晃子（食文化研究所主宰）



月刊『福音宣教』お申し込み方法

◇郵便局に備えつけの振替用紙にて年間定期購読料を下記口座までお振り込みください。ご入金確認後、発送いたします。

- 口座番号：00170-2-84745
- 加入者名：オリエンズ宗教研究所
- ご購読料：7500円（税・送料込）
- 備考欄：「福音宣教～月号から」とご希望の開始月をご明記ください。ご指定がなければ、最新号からお送りいたします。

年間定期購読料（年11回、8・9月合併号）7500円（税・送料込）一部定価600円＋税

オリエンズ宗教研究所 〒156-0043 東京都世田谷区松原 2-28-5
Tel 03-3322-7601 Fax 03-3325-5322 <https://www.oriens.or.jp/>



福者マリー=ユジェーヌ神父に導かれて
十字架の聖ヨハネの
ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価**540**円(税込)

【聖母文庫】 **287**

**第2版
好評発売中!**



マリー = ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ
を生き、体験し、確認した教えなのです。
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの
教えは現代の人々にも十分適応されます。
また、神の命を伝え、実践的手段を示して
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の
配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

神と親しく生きる
いのりの道

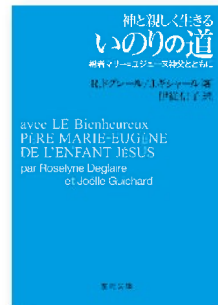
福者マリー=ユジェーヌ神父とともに

R. ドブレール / J. ギシャル 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】 **246**

定価**540**円(税込) 209頁



わたしは神をみたい
いのりの道をゆく

マリー=ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

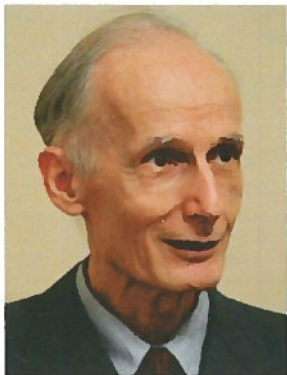
ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】 **268**

定価**648**円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	I 超越体験 一宗教論 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	定価(本体+税) 9784862852151 3,800 円+税
第2巻	II 真理と神秘 一聖書の黙想 日常生活を貫いて人間とかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	III 信仰と幸い 一キリスト教の本質 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに広げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践 信仰との関わり方の薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(～2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知 泉 書 館

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>



奥村一郎選集

追悼 奥村一郎師

その時と場所で与えられた役割を
誠実に果たし続けた師が遺す珠玉の名編

四六判・上製・平均 240 頁・各巻とも **本体 2000 円**+税

日本の文化の中で福音が豊かに開花することを求めて祈り、思索した奥村一郎師。本選集は半世紀にわたるその膨大な著作、講演等の記録から特に重要と思われるものを選び、テーマ別に集成したものです。豊かな霊性をたたえた祈りの人であり、東西霊性交流など宗教対話のダイナミックな推進者。静謐さと情熱を併せ持つ著者が紡ぎ出してきた言葉の数々は、神と人に真摯に向かう姿を私たちに示してくれます。ときにユーモアを交えたその視座は、日本における福音宣教を願うすべての人々にとっての道標となることでしょう。

第1巻



慈悲と隣人愛 解説・西村恵信

日本文化に影響を与える仏教の光を当てつつ聖書を読み、キリスト教の本質理解に近づく。カトリックから禅へ／小事と瑣事／禅とキリスト教における靈的修行

第2巻



多文化に生きる宗教 解説・橋本裕明

宗教対話と霊性交流から得られた柔軟な視点から、日本での新たな宣教の可能性を示す。大いなる贈け——宗教対話／日本人とキリスト教——遠藤文学の魂

第3巻



日本の神学を求めて 解説・小野寺 功

日本の地に根ざす神学、その開花の可能性を福音の原点である相互愛から問いかける。日本の神学——根源への問い／相互愛／「信ずる」と「愛する」／新しい旋

第4巻



日本語とキリスト教 解説・阿部仲麻呂

関係性を重視する表現が中心となる日本語を手がかりに、ことばと信仰の関係を再考する。日本人の心とその精神構造／「ことば」から「みことば」へ／聖書と翻訳

第5巻



現代人と宗教 解説・鶴岡賀雄

宗教不在とされる現代、人々が直面する課題にキリスト教はどう向き合っているのか。現代人とキリスト教／偶像の喪失／退屈／「新しい人」としての真人

第6巻



永遠のいのち 解説・八木誠一

生と死、罪と恵み、正義と愛——人間の栄光と悲慘を見極め、永遠のいのちへの道を探る。嬰兒復帰／人間の栄光と悲慘／神は死せり／十字架の秘義／人間と世界と神

第7巻



カルメルの霊性 解説・高園泰子

愛ゆえにすべてを、命さえも失ったイエスを追い求めるカルメル。その霊性の根源に迫る。アビラのテレジア／十字架のヨハネ／小さきテレーズと東洋的霊性

第8巻



神に向かう〈祈り〉 解説・高橋重幸

東西における祈りの方法論を丹念にたどりつつ、キリスト教の祈りの本質を明らかにする。考える祈り、思う祈り、愛する祈り／現代における祈りの指導者／祈りとは何か？

第9巻



奉獻の道 解説・宮本久雄

すべての人にみずからを与えつくす奉獻生活を通して、人間そのものの神秘を見つめる。清らかな矛盾／世を変えるパン種として／清貧の誓願／現代に生きる修道者の霊性

カルメル会会員、在俗会メンバーの方々には特別割引があります。直接お問い合わせ下さい。

オリエンズ宗教研究所 〒156-0043 世田谷区松原 2-28-5

TEL : 03-3322-7601 FAX : 03-3325-5322

ホームページ : <http://www.oriens.or.jp/>

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



東京 上野毛 霊性センター

黙想企画 **上野毛 聖テレジア修道院(黙想)** **
(2021年~)

- ・祭日のミサに参加するために

チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

【聖週間】

聖木曜日から復活祭まで通して参加できます。またどの曜日からでも参加可能です。

4月1日(木)夕食~4月4日(日) 朝食 《講話なし、各食3付》

【クリスマス】

12月24日(金)~25日(土) 朝食 《講話なし、夕食なし》

- ・聖書深読黙想会(土曜日17時~日曜日16時) 大瀬高史 神父

2月27日(土)~28日(日) 10月 2日(土)~ 3日(日)

4月24日(土)~25日(日) 11月27日(土)~28日(日)

5月29日(土)~30日(日) 2022年

7月 3日(土)~ 4日(日) 1月 8日(土)~ 9日(日)

8月28日(土)~29日(日) 3月12日(土)~13日(日)

- ・《カルメル会聖人に学ぶ黙想会》(水曜日10時~16時・昼食付) カルメル会士

2月17日 3月17日 4月21日

5月19日 6月16日 7月21日 9月22日

10月20日 11月17日 12月15日

2022年 1月19日 2月16日 3月16日

- ・一泊黙想会 (土曜日17時~日曜日16時) カルメル会士

3月13日(土)~14日(日) 今泉健神父 11月20日(土)~21日(日)

5月22日(土)~23日(日) 2022年

7月24日(土)~25日(日) 1月29日(土)~30日(日)

9月25日(土)~26日(日) 3月19日(土)~20日(日)

- ・ 奉獻生活者のための黙想会（初日 17時～最終日朝食） カルメル会士
 8月 1日(日)～10日(火)
 8月16日(月)～25日(水)
 12月27日(月)～1月 5日(水)
- ・ 青年黙想会(男女) 35歳まで(初日 16時～翌日 16時) カルメル会士
 2021年 3月26日(金)～28日(日)
 2022年 3月25日(金)～27日(日)
- ・ 召命黙想会(男女) 40歳まで(初日 16時～翌日 16時) カルメル会士
 11月 5日(金)～7日(日)
- ・ カルメル会召命黙想会(対象男子) (土曜日 16時～日曜日 16時)カルメル会士
 4月10日(土)～11日(日) 2022年
 6月12日(土)～13日(日) 2月26日(土)～27日(日)
 10月 9日(土)～10日(日)
 12月11日(土)～12日(日)
- ・ 特別黙想会(初日 20時～最終日 16時)Sr. 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)
 6月18日(金)～20日(日)
 11月12日(金)～14日(日)
- ・ キリスト教霊性入門(10時～16時 昼食付) 松田浩一神父
 2月10日(水) 3月11日(木) 4月 8日(木)
 5月13日(木) 6月17日(木) 7月 8日(木)

- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です(グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせは FAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂けますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール: mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ: <http://www.carmel-monastery.jp>



カルメル青年黙想会

イエスと共に生きる



- 日時 : 2021年3月26日(金)16時～28日(日)16時
場所 : カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)
対象 : 青年男女(16歳～35歳まで)
定員 : 8名
費用 : 一般 10,000円 学生 5,000円
締切 : 2021年3月19日(金)
指導 : カルメル会士

※住所・氏名・性別・年齢・電話番号・所属教会名を記入し、ハガキ・FAX・E-mailの何れかで下記まで。折り返し、こちらよりご連絡させていただきます。

158-0093 世田谷区上野毛2-14-25

カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)

電話 : 03(5706)7355

FAX : 03(3704)1789

E-mail : mokusou@carmel-monastery.jp

京都司教区オンライン聖書講座

ZOOM

コロナの時代に聖書を生きる

—混沌への光を探して— (全5回)

講師：中川博道 神父様

(カルメル修道会)



日時：2020年10月8日(木) 10:30～11:50

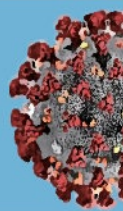
11月12日(木) 10:30～11:50

12月10日(木) 10:30～11:50

2021年1月7日(木) 10:30～11:50

2月4日(木) 10:30～11:50

聖書を生きる



申込方法：メールにて seisho@kyoto.catholic.jp までお名前、ご住所、所属教会（信徒の方）をお書きの上、お申込みください。お申し込み後、会費をお振込みください。お振込の確認が出来次第、こちらから受付完了と ZOOM 招待の URL を付けたメールをお送りいたしますので、当日はご自宅などよりご視聴ください。受講の際の詳細につきましては、メールに記載いたします。

会 費：全5回分 1,000円 郵便振替にて9月25日までに下記宛
口座番号 00910-9-148401 カトリック京都司教区聖書委員会

お問い合わせ：カトリック京都司教区聖書委員会

TEL / 075-366-6609 (水、木の10:00～16:00)

FAX / 075-366-6679

e-mail / seisho@kyoto.catholic.jp

主 催：カトリック京都司教区聖書委員会



宇治カルメル会 黙想会案内 (2021年度)

【一般のための黙想】 中川博道神父

1泊2日 (土曜午後5時～日曜午後4時)

5:30 サルヴェ・レジーナ(修道院)から開始

~~2/13~~～~~14~~中止 6/5～6 7/17～18

9/18～19 10/30～31

【聖書深読】(午前10時～午後4時) 中川博道神父

~~2/6~~中止 3/6 6/26 7/24 9/4

10/2 11/6 12/18

【水曜黙想会】(第3水曜日)(午前10時～午後4時)

~~2/17~~中止 3/17 4/21 5/19 6/16 7/21

9/15 10/20 11/17 12/15

(6/20 7/21 11/17 カルメル宣教修道女会 Sr. ロサ)

他すべて 中川博道神父

【ゴールデンウィーク黙想会】 中川博道神父

5/1(土)午後5時～5/8(土)午前10時

参加期間は、全日通しでもどの曜日からでも自由です。

【カルメルの霊性】(午後5時～午後4時) 中川博道神父

幼きテレジア 10/2(土)～3(日)

十字架の聖ヨハネ 12/11(土)～12(日)

【奉獻生活者の黙想】(午後5時～午前9時) 一般可

7/29(木)～8/7(土) 中川博道神父

8月(日時未定) 大瀬高司神父

(決まり次第HPでお知らせします)

9/20(月)～29(水) 中川博道神父

11/8(月)～17(水) 中川博道神父

12/27(月)～1/5(水) 中川博道神父

【待降節黙想会】(午後5時～午後4時) 中川博道神父

12/4(土)～5(日)

【祭日のミサに参加するために】

*<聖週間を祈る>

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30
聖木曜日から復活祭まで通してどの曜日からでも参加可。(講話なし 食事つき)

*<クリスマス>

12/24~25

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30
(講話なし 食事つき)

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします—

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前9時～午後5時の間にお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願い致します。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
Tel 0774-32-7016 Fax 0774-32-7457
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp
<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

キリスト教放送局 **FEBEC** 2020.10~2021.3

2020年秋冬 番組案内

AMラジオ放送

AM1566kHz 毎夜9:30~
〈全国放送〉

インターネット放送

www.febcjp.com 〈毎日更新〉

日 夜9:30~ **月** 夜9:30~ **火** 夜9:30~ **水** 夜9:47~ **木** 夜9:47~ **金** 夜9:37~ **土** 夜9:30~ **日** 夜10:27~

[月~金] 夜9:30~
FEBEC TODAY - 今日の聖書・今週の讃美歌 -

恵子の郵便ポスト

FEBECメインパーソナリティ
吉崎恵子

全地よ主を ほめたたえよ

主日礼拝取材番組

- [第1] 日キ教会 高知旭教会
- [第2] 福音ルーテル 神水教会
- [第3] 日基教団 久万教会
- [第4] 日基教団 中標津伝道所
- [第5] 各地の教会

夜9:48~

**神父さま、
こんにちは
聞いても
いいですか?**
(再)

百瀬文晃
カトリックイエス会司祭
お相手・吉崎恵子

夜9:47~

幸福宣言
- 主イエスの
山上の説教に聴く

竹森満佐一
日本基督教団元牧師

夜9:47~

**嘆きに応える
神の御言**

金田聖治
日キ教会
上田教会牧師

夜9:47~

Session
- イエスの
Tuneに
合わせて

早矢仕宗伯
[NCAMイエスの風] 牧師
塩谷達也 [コスベル
シンガー]

[第1] 夜9:37~
再開
**イエスとの
対話の旅**
- 現代霊性神学講座
- 中川博道 カトリック・
カールメルケル会 修道院司祭

[第1] 夜10:25~ **再開**
外からの「声」
- FEBEC HANGOUT!

新 [第2] 夜9:47~
**「時のしるし」を
求めて コロナ時代の
教会の模索**

夜10:14~

**Echo of
Voices**

長倉崇宣

夜10:14~

**マイ・
プレイリスト**

飯靖子
日基教団 霊南坂教会
聖歌隊指揮者・オルガニスト

夜10:14~

**主に向かって
歌おう**

飯靖子
日基教団 霊南坂教会
聖歌隊指揮者・オルガニスト

夜10:14~

ザ・ストーリー
- 一冊の本に
込められた
思い

服部みぎわ

夜10:28~

御足の跡を

小池与之祐
日基教団 神の愛
キリスト伝道所牧師

夜10:28~

FEBEC Sprout!

長倉崇宣

夜10:28~

新

**イエスから
始めよう**

夜10:28~

聖書を開こう

山下正雄
RCJメディア
ミニストリー代表

夜9:30~



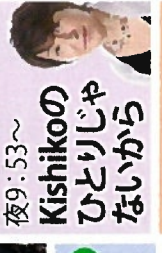
[第1] 夜9:37~

再開

**イエスとの
対話の旅**
- 現代霊性神学講座
- 中川博道 カトリック・
カールメルケル会 修道院司祭

夜9:53~

**Kishikoの
ひとりじゃ
ないから**



新 [第2] 夜9:47~
**「時のしるし」を
求めて コロナ時代の
教会の模索**

[第1~3] 夜10:04~
**コーヒー
ブレイク・
インタビュ**
- インタビュー -
吉崎恵子・長倉崇宣

[第3~4] 夜9:37~

**闇の中は輝く
「獄中書簡」(再)**

小林和夫 ホーリーネス
東京聖書学院教会牧師

夜10:28~

聖書を開こう

山下正雄
RCJメディア
ミニストリー代表

夜10:28~

**イエスから
始めよう**

夜10:14~

**Echo of
Voices**

長倉崇宣

夜10:14~

**マイ・
プレイリスト**

飯靖子
日基教団 霊南坂教会
聖歌隊指揮者・オルガニスト

夜10:14~

**主に向かって
歌おう**

飯靖子
日基教団 霊南坂教会
聖歌隊指揮者・オルガニスト

夜10:14~

ザ・ストーリー
- 一冊の本に
込められた
思い

服部みぎわ

夜10:28~

御足の跡を

小池与之祐
日基教団 神の愛
キリスト伝道所牧師

夜10:28~

FEBEC Sprout!

長倉崇宣

夜10:28~

新

**イエスから
始めよう**

夜10:28~

聖書を開こう

山下正雄
RCJメディア
ミニストリー代表

夜10:31~

黙想のとき(再)
主よ、共に宿りませ
安保ふみ江

[第3~4] 夜10:20~

**Meguの
CCM insight!**



諸所の企画案内



真命山 霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

真命山 2021年 — 祈りの集いのご案内

「祈りの実り：イエス様と共に、 イエス様のように生きること」

毎月第2木曜日（10:00～15:00）

指導者 フランコ神父

1月14日 柔和な師イエスに習う(マタイ11・29)

2月11日 謙遜な師イエスに習う(マタイ11・29)

3月11日 十字架を背負っているイエス様に従う(ルカ14・27)

4月 8日 神の国でキリストと共に食事の席に着く(ルカ22・30)

5月14日 給仕するイエス様に学ぶ(ルカ22・27)

6月10日 「私があなたがたを愛したように…互いに愛し合いなさい」
(ヨハネ14・34)

7月 8日 祈るイエス様に習う(ルカ11・1)

* * *

9月 9日 「病気や患いを癒された」イエスの模範に従う(マタイ4・24)

10月14日 「福音を宣べ伝えた」イエスの模範に従う(マタイ4・24)

11月11日 ナインの母親を見て、憐れに思ったイエスと共に(ルカ7)

12月 9日 「行って…場所を用意したら、戻って来て、あなたがたを
私のもとに迎える」(ヨハネ14・3)



※個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします(要予約)

申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

tel:0968-85-3100

講話と祈りのつどい

コロナウイルス感染の広がりにより、
予定しておりました「講話と祈りの集い」の開催を
現在保留にしております。

状況の推移を見守りながら開催の有無を
当会のHPに掲載いたしますので、
そちらをご覧くださいいただければ幸いです。

担当 中山真里

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.com

念祷の集い

～沈黙の内に神を求めて～

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室

時間：以下の木曜日

14:00～16:00(講話と念祷)

主催：慈しみ深き会



くのり

指導：九里 彰 神父（カルメル修道会）

中止のお知らせ

2021年度予定

~~1月21日（木） 3月25日（木）~~ 中止

予定しておりました「念祷の集い」は教区よりの指示により、再度中止となりました。

4月以降については、再度紙面にてお知らせ致します。

連絡先：篠原 三恵子

Tel:042-473-6287

e-mail: mieko.shinohara@gmail.com



朝日カルチャーセンターの 通信深読「聖書に親しむ」へのご案内

「通信深読」は、「聖書深読黙想会」にさまざまな理由で参加できない方々のために考案されました。参加を希望される方は、下記の朝日カルチャーセンター通信講座課へお申し込みください。手続きがすめば、次のような手順でこの「通信深読」が行われてゆきます。

ファースト・ステップ

「個人素読」：毎月、朝日カルチャーセンターから指定された聖書深読箇所を、ひとりで繰り返し読み、み言葉を自由に黙想します。

セカンド・ステップ

「個人素読」の報告書作成：送られてきた用紙（B5用紙）に、深読箇所特に印象に残った節を二三ヶ所選び、番号と○や△や×などの記号を記し、「全」には、全体の印象を表す、ご自分の体験と結びついた具体的な名詞を、「照」にはみ言葉を実践する決意を示す動詞を書き込みます。さらに「所感」や「近況報告・質問」の欄に、ご自由に自分の考えや質問等を記入します。

サード・ステップ

（参加者から朝日カルチャーセンターへ送られた「個人素読」の報告書は、参加者全員のものまとめられ、講師へ送られます。）

講師が各参加者の「個人素読」の報告書に対しコメントし、深読箇所の「解説」（A4 2枚）と共に、朝日カルチャーセンターへ送り返します。

フォース・ステップ

コメントされた全員の「個人素読」の報告書（「近況報告・質問」はプライベートなこともあるので、削除されます）と「総合素読表」、そして講師の「解説」が冊子となり、各参加者に、センターから送られます。

* 費用：6ヶ月（20,360円）。納入は4月、7月、10月、1月。継続の場合19,130円。

* 講師：九里彰師（奇数月）、今泉健師（偶数月）

* 問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座課

Tel: 03-3344-2527（直通）

『靈性センターニュース』

* 郵送お申込みのご案内 *

ご郵送は、基本的に1月から12月までとなります。
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から12月までとなります。
例：6月申込の場合は、7月号~12月号（但し8月号は休刊）となり、
5冊となります。ご希望の月数×250円程度の献金を下記口座
へお振込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、
郵便番号・住所、電話、Fax等ご明記ください。

また、郵送お申込とは別に、ご献金もお願いしております。

その場合は、「献金」とご記入お願い致します。

何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457

reisei@carmel-monastery.jp

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています

あとがき . . . つぶやき . . .

世界各地でワクチン投与が始まりました。

それと前後するように、“パンデミック後の世界の模索”が、現実味を帯びて、あらゆる分野で進み始めています。それは、一見、ばらばらな探求のようにみえますが、いずれにしても、人間を根底から問い直す歩みのように思います。

しかし、それぞれの場からの様々な論調をたどっていると、どこか自分からかけ離れたところでの見直しに落ち着いてしまいそうで、結局、何も変わっていない自分がパンデミック後に取り残されるような危惧をいただきます。

“三蜜をさける”という、孤立し断裂していくかのように見える時代の中で、わたしたち自身が、今、あらためて問われていることは、今までの隣人とのかかわり、社会との、地球とのかかわり、そして究極のお方とのかかわりの見直しです。特に、何かに捕らわれて見落としていたかもしれない最も基本的なかかわりの見直しです。自分が派遣され、人生の基盤となっている共同体の中での、様々なかかわりの見直しです。具体的には、家庭・家族の中で、自分の所属する教会共同体の中で、あるいは、責任をもって所属している場で、わたしにとっては修道会・修道院内でのかかわりであったりします。

今月、四旬節が始まります。それは、エジプトの奴隷状態から、乳と蜜の流れる地（最終的には父と子と聖霊の愛の交わりの世界）への40年に及ぶ脱出の歩みの記念です。この呼びかけの中で、わたしたちは、具体的な自分の場の問題性からの脱出の歩みを主イエスとともにたどります。

主とともにたどる歩みの中にこそ、パンデミック後の世界を真実に生きる道があることが、わたしたちの信仰の核心です。

“わたしはあなたを愛している”と、わたしに向けられているイエスのみ顔を、その眼差しを見つめ直す時です。

Fr.中川博道 o.c.d.

